

一般

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務事業名		山田線活性化の検討に関する事業			事業コード	2449
担当課等	所属名	建設部 交通政策課		担当係名		
	課長名	建設部 交通政策課	担当者名	建設部 交通政策課 菅原 隆彦	電話番号	2764

1. 事務事業の基本情報

総合計画体系	施策の柱	快適な都市機能	コード 7	施策	都市活動を支える交通環境の構築	コード 8
	基本事業	公共交通機関の利便性向上と利用促進	コード 2	関連予算 費目名	一般会計 8款 4項 9目 鉄道利用促進(001-02)	
	特記事項					
事業期間	<input checked="" type="radio"/> 単年度 <input type="radio"/> 単年度繰返 <input type="radio"/> 期間限定複数年度					
事務事業の概要	JR山田線の活性化方策の検討は、市総合交通計画に位置づけており、具体的な取り組みとして、鉄道とバスの結節強化に位置づけている。JR山田線沿線には、多くの住宅地があるが、運行本数が少ないため、利用者が少ない状況である。そのため、JR盛岡駅とJR上米内駅間での折り返し運行などについて、調査検討し、JR山田線の活性化方策を検討する。					
根拠法令等	市総合計画					
この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)						
市総合交通計画における具体的な取り組みとして、鉄道とバスの結節強化に位置づけており、その具体的な方向性の検討をする根拠となる。						
この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか						
議会から、山田線活性化のため、社会実験の実施が提案されている。						
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどう変化したか。今後の見通しはどうか						
山田線活性化の具体的な方向性が検討される。						

2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を、何を対象としているのか)	需要調査	⇒	②対象指標 (対象の大きさを示す指標)	A. 需要調査	単位	件
				B.	単位	
				C.	単位	
③手段 (事務事業の内容、やり方、手順)	22年度実績(22年度に行った主な活動) JR山田線利用者の実態調査や沿線住民等の需要調査 23年度計画(23年度に計画している主な活動) JR山田線利用者の実態調査や沿線住民等の需要調査	⇒	④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)	A. 需要調査	単位	件
				B.	単位	
				C.	単位	
⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか)	需要調査結果を取りまとめる	⇒	⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標)	A. 需要調査結果 【指標の性格:○上げる ○下げる ●維持する】	単位	件
				B. 【指標の性格:○上げる ○下げる ○維持する】	単位	
				C. 【指標の性格:○上げる ○下げる ○維持する】	単位	
⑦結果 (上位基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するか)	公共交通(バス・電車・タクシー)の利便性が向上し、利用が促進される	⇒	⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標)	1日当たりバス利用者数(単位:人) 1日当たり鉄道利用者数(単位:人)		

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	需要調査	件	1	1	1	1	1		26年度
									1
									年度
対象 指標B								年度	
対象 指標C								年度	
活動 指標A	需要調査	件	1	1	1	1	1		26年度
									1
									年度
活動 指標B								年度	
活動 指標C								年度	
成果 指標A	需要調査結果	件	1	1	1	1	1		26年度
									1
									年度
成果 指標B								年度	
成果 指標C								年度	

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	*****
事業費	A	千円	0	0	0				*****
	財源 内訳								
	④国	千円							*****
	⑤県	千円							*****
	⑥地方債	千円							*****
	⑦一般財源	千円	0	0	0	0	0	0	*****
	⑧その他	千円							*****
	合計(④~⑧)(=A)	千円	0	0	0				*****
	延べ業務時間数	時間	50	50	50	50	50		*****
	職員人件費(B)(臨時職員賃金は、事務費に含む)	千円	200	200	200	200	200	0	*****
	トータルコスト(A)+(B)	千円	200	200	200	200	200	0	*****


3. 事務事業の評価(See)

必要性評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 結びついている	理由: 需要調査結果によって、沿線地域の公共交通利用施策の方向を検討できる
	② 公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 妥当である	↳ 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: 公共交通を総合的に検討するために必要である
	③ 対象の妥当性 対象の設定は現状のままでもいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？	<input type="radio"/> 拡大または絞る余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	↳ 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: 沿線地域の公共交通利用施策の方向を検討するため必要である
	④ 意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？	<input type="radio"/> 拡大または絞ることができる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	↳ 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: 沿線地域の公共交通利用施策の方向を検討するため必要である
有効性評価	⑤ 成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？	<input type="radio"/> 向上余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 向上余地がない	理由: 現在予算措置がないため
	⑥ 廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？	<input type="radio"/> 影響がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 影響がある	その内容: 議会等からの提案に対応できない
	⑦ 類似事務事業との関係 類似の事務事業(国, 県, 市の内部, 民間)はありますか？	<input type="radio"/> 類似事業がある <input checked="" type="radio"/> 類似事業がない	事業名: _____ ※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか？ 統廃合・連携検討 <input type="radio"/> できる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> できない 理由: _____
効率性評価	⑧ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない	理由: 予算措置されていない
	⑨ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない	理由: 現在最小限の人員で行っている
公平性評価	⑩ 受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 公平・公正である <input checked="" type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: _____
	⑪ 費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 公平・公正である <input checked="" type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: _____

4. 事務事業の改革案(Plan)

改革/改善方向	<p>①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1, 代替案その2とすること 山田線沿線は市中心部までの距離が近いことや路線と需要方向の関係から、鉄道利用として大きな需要は見込めないと考えられる。一方、近隣には学校や病院が立地しており、交通需要そのものは高い地域であることから、山田線のみならず路線バスも含めた公共交通の利便性向上について検討することが有効と考えられる。</p> <p>②改革, 改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか? それをどう克服していきますか? (関連部門や全庁的な調整の必要性, トップへの要望も含む)</p>
---------	---

5. 課長意見

一次評価	<p>(1)一次評価者としての評価結果</p> <p>① 必要性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ② 有効性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ③ 効率性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ④ 公平性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり :</p>	<p>(2)全体総括(振り返り, 反省点)</p> <p>需要検討については、22年度に実施され、今後、他の交通機関も含めた沿線地域での総合的な交通施策の検討を行う必要がある。</p>					
今後の方向性と改革改善案	<p>(3)今後の事務の方向性(改革改善案)</p> <table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 終了</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 継続</td> <td rowspan="2"> <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 </td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 廃止</td> <td><input type="checkbox"/> 休止</td> </tr> </table>		<input type="checkbox"/> 終了	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合・連携	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止
<input type="checkbox"/> 終了	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合・連携					
<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止						
							
	<p>方向付けの理由と改革改善の内容</p> <p>本事業は、22年度で終了し、事業結果を踏まえて、今後、関連事業である「もりおか交通戦略」のローリングの中で、他の交通手段も含めた沿線地域の総合的交通戦略を検討する。</p>						